平成26年1月10日

25年度 氷見市教育総合センターだより 第7報

メールアドレス　kyouikukenkyu@city.himi.lg.jp
ホームページアドレス　http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000000500/hpg000000416.htm

南部中学校区「小中連携事業」の取組

氷見市立南部中学校

南部中学校区の小・中学校では、今年度、小中連携推進委員会及び小中連携会議（「学力向上部会」「生徒指導部会」「家庭・地域連携部会」の３部会）を開催し、児童生徒の実態について共通理解を図るとともに、９年間を見通した学習指導、生徒指導の在り方について協議し、小中連携を推進している。

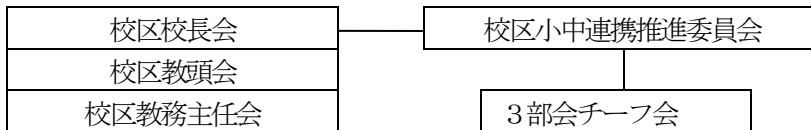
「小中連携部会全体会議」

＜校区小中連携推進委員会組織図＞

- 校区校長会／校区教頭会／校区教務主任会 ― 校区小中連携推進委員会
  - ３部会チーフ会
    - 学力向上部会
    - 生徒指導部会
    - 家庭・地域連携部会

学力向上部会

生徒指導部会

家庭・地域連携部会

＜これまでの主な取組と今後の日程＞

日程	内容
４月18日	３部会チーフ会：今年度の構想の作成
４月24日	全体会議、３部会：今年度の構想の共通理解と役割分担について
７月下旬	３部会：１学期の各実践の発表と検討及び２学期に向けての取組（課題）
12月25日	３部会：２学期の各実践の発表と検討及び３学期に向けての取組（課題）
２月下旬	３部会：本年度の成果と課題、来年度の取組についての検討と決定

※　３月には、研究紀要（南部中学校区小中連携教育の歩みー平成23年度～25年度ー）を発刊する予定

＜３部会の主な取組＞

南部中学校区の小・中学校全教員が、次の３部会のいずれかに所属する。

○ **学力向上部会**：教務主任、研究主任等
- 学力の実態分析及び学力向上に向けての取組と対策（小・中各学年で作成し、小６は中学校へ引き継ぐ）
- 言語活動の充実（ノート指導、読書指導、家庭学習の指導等）
- 学習習慣の確立（聞く力の育成、授業の準備物や提出物等の徹底等）
- 互見授業（学校訪問、校内研究授業等への参加）のもち方について

○ **生徒指導部会**：生徒指導主事、教育相談担当者等
- 「『生徒指導の機能を生かした授業』になっているかを確かめるチェック表」の活用
- 「小中連携シート」の活用
- 学期に１回以上の学校生活アンケート及び教育相談
- 毎月１・15日の小中合同挨拶運動
- 「ハートフル活動推進委員会」の活動の充実（広報紙「輝け子どもたち」の発刊等）

○ **家庭・地域連携部会**：教頭、養護教諭等
- ゼロメディア運動（ＰＴＡと連携）
- 親学び（ＰＴＡと連携）
- 地域に出向く体験活動（祇園祭後の早朝清掃活動、深田の体験活動等）
- 互いの行事への参加交流（運動会、学校祭等）
- 校区の人材バンクの作成（地域の方の話、講演会等）
- 広報紙の交流（ＰＴＡの活動の様子等）

チームによる支援のすすめ

すべての子どもを支援する教育相談・生徒指導・特別支援教育の新しい流れ

① 指導（困った子） → 支援（困っている子）

② 抱え込み・孤軍奮闘 → チーム支援（みんなで支援）

③ 原因探し → リソース探し（みんなが資源）

④ 治す（治療的） → 防ぐ（予防的） → 育てる（開発的）

⑤ アセスメント重視で、具体的な支援（だれが何をするのか）へ

ケース会議をやってみよう

こんなケース会議はやりたくない！！
時間が長い、負担感が大きい・・・
アドバイスがもらえない・・・

ケース会議に臨むルール（心構え）を確認しよう

- 提案者（担当者）への批判的発言は控えよう
- 様々な視点から、よいと思うことを積極的に発言しよう
- みんなで作り上げるものであり、参加者全員の力を結集しよう

⇨ **限られた時間で、より具体的な支援方法を探ってみよう！！**

話合い能力を高めよう

1 参加者の気持ちに配慮した発言を心がけよう
2 感謝は口に出して伝えよう
3 自分と違う立場・意見の人の考えにも、誠実に耳を傾けよう
4 自分と違う立場・意見の人に対しても、上手に自分の思い・考えを伝えよう

解決思考アプローチに挑戦しよう

解決思考アプローチとは？
「問題やその原因、改善すべき点」を追求するのではなく、解決に役立つ「リソース＝資源（能力、強み、可能性等）」に焦点を当て、それを有効に活用するアプローチ法です。「何がいけないのだろう？」と考える代わりに「自分が望む未来を手に入れるために、何が必要なのだろう？どうやったらできるだろう？」と考え、解決策を探っていきましょう。

解決思考アプローチの鍵

1 **リソース（資源・能力）探し** … ○○が「問題」ではなく、○○できる「能力」を探す。内的リソース（本人の中にある成功体験、自信、興味、得意分野等）と外的リソース（家族や友人、本人の宝物等）がある。
2 **「例外」探し** … 少しでも、１回でもうまくやれた状況に目を向ける。
3 **成功の責任追及** … 「例外」がどうしてもたらされたか、「うまくいった理由、どんな力が役に立ったのか」を考える。
4 **リソースの肯定的なフィードバック** … できたこととそのやり方を評価し、ほめる、ねぎらう、賞賛する言葉を伝える。
5 **機能する目標づくり** … 達成可能な具体的で、肯定的に表現した目標を設定する。

新着図書の紹介

発達障害を考える　心をつなぐ　　発行所：ナツメ社
- **図解よくわかるアスペルガー症候群**　著　広瀬宏之
- **図解よくわかるADHD[注意欠陥多動性障害]**　著　榊原洋一
- **図解よくわかる自閉症**　著　榊原洋一
- **図解よくわかるLD[学習障害]**　著　上野一彦

アスペルガー症候群、ADHD、自閉症、LDの子どもたちの特徴や障害特性、集団生活を送るときのポイントや家庭での支援の仕方等、イラストをふんだんに使って分かりやすく解説。具体的な支援方法も豊富に掲載されている。

なぜあの教師は保護者を怒らせるのか　　発行所：教育開発研究所
プロ直伝!学校の苦情取扱説明書　著　関根眞一

苦情・クレーム対応アドバイザー、元百貨店お客様相談室長　関根眞一先生の著作。
「当然、無理な要求は毅然として断るが、判断を間違えばこじれる。勘違いは、会話をさえぎるのではなく、聞き終えたのちに、優しく相手に気づかせることがポイントなのだ。学校保護者問題の根底にあるのは事象の解決ではなく、話し合う場の雰囲気があれば、苦情は相談に変わるのではないかと考える。(あとがきより)」
様々な事例を検証し、背景と理想的な対応を示した一冊。

事例で学ぶ“学校の法律問題”　　発行所：教育開発研究所
判断に迷ったときに手にとる本　共著　坂田　仰／黒川雅子

「教育という営みの本質を無視した法規至上主義ではなく、だからといって“教育的配慮”や“教育条理”という一言で法規の有権的解釈を無視するのでもない。バランス感覚に優れ、日々の学校経営、教育実践に実際に試される“リーガル・マインド(法的素養)”を身に付けるツールとして、一人でも多くの方に本書を活用していただければ幸いである。(はしがきより)」

スペシャリスト直伝!　　発行所：明治図書出版
学級を最高のチームにする極意　著　赤坂真二

子どもの適応感(学校生活に対する満足感や意欲等)、学級の良好な人間関係や温かい雰囲気を高める学級づくりを研究している上越教育大学准教授　赤坂真二先生の著作。
「世の中では『関係性の成功なくして仕事の成功なし』などと言われます。これを学校に置き換えれば『良好な関係なくして、学習の成果なし』と言えるのではないでしょうか。(上越教育大学HPより)」
学級経営の目的や意義、学級をチーム化するためのステップを分かりやすく解説。

その他の新着図書
- 特別支援教育コーディネーターのための対人関係活用マニュアル　東洋館出版社
- 行為障害と非行のことがわかる本　著　小栗正幸　講談社
- 子どもの問題行動を解決する3ステップ　著　ロス・W・グリーン　日本評論社
- エピソードで語る教師の極意　著　赤坂真二　明治図書出版

全国学力・学習状況調査結果（算数・数学）より

前回第６報にて全国学力・学習状況調査結果（国語）についてお知らせしましたが、算数・数学においては、下記のような課題が見られました。

＜小学校＞

［数量関係］
表の数値を根拠として、二つの数量の関係が比例しているかどうかを説明する指導の重視

〇算数B 2 (3)は、「示された実験結果から、ふりこの長さと 10 往復する時間が比例の関係になっていないことを表の数値を基に書く」問題でしたが、根拠となる数値（下記の解答例の太字）を示して記述することができていないものや無解答が多かった。二つの数量の関係が比例の関係でないことを**数と言葉で記述すること**に課題が見られた。

実験の結果

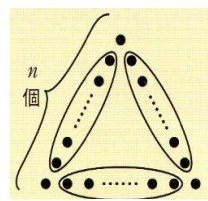
ふりこの長さ(㎝)	２５	５０	７５	１００
10 往復する時間(秒)	１０	１４	１７	２０

（問い）　「長さを２倍に変えたとき、１０往復する時間は２倍になっていない」ことを、上の表の中の数と言葉を使って書きましょう。

（解答例）　ふりこの長さが **25㎝** から **50㎝** と **２倍**に変わったとき、10 往復する時間は **10 秒**から **14 秒**で **２倍になっていない**からです。

二つの数量の対応や変化の特徴を明らかにするためには、二つの数量の関係を表にまとめたり、表から規則性を読み取ったりすることが大切である。特に、見いだした二つの数量の関係が比例しているかどうかについて、**表の数値を根拠として説明することが大切**である。

今後、比例の学習に限らず、普段の学習で判断の理由を説明するときには、**算数の用語や数値を使って説明することができるように指導する**ことが大切である。

＜中学校＞

［数と式］
事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明する活動の充実

〇数学B 6 (3)は、「碁石全部の個数を、３（ｎ－２）＋３という式で求めることができる理由を説明する」問題でしたが、事象と式の対応を的確に捉え、**事柄が成り立つ理由を説明すること**に課題が見られた。

事柄が成り立つ理由を事象に即して説明できるようにするためには、事柄の意味を事象に即して読み取り、読み取った意味に基づいて、説明する事柄（B）とその根拠（A）を明確に区別し、「（A）であるから、（B）である。」のように的確に表現できるようにすることが求められる。

説明する事柄（B）
式３(ｎ－２)＋３の意味は？

根拠（A）

今後、事象を数学的に表現したり、数学的に表現された結果を事象に即して解釈したりすることを通して、事柄が成り立つ理由を**筋道を立てて説明する力を育てていく**ことが大切である。

小・中学校ともに、今後も、算数・数学や他教科等において、教科等の特質に応じた言語活動の充実が求められる。